４　実践・研究

（１）　研究の経過

平成 22 年

１２月下旬　**後期個人懇談会で「いいとこ見つけ！」カードの配付**

１２月２８日　**校内研修**　生徒理解について
講師　廿日市市立佐方小学校　　木本　弘士　校長先生

平成 23 年

１月１１日　**研究授業**　１学年　国語科　長井　泰子　教諭
藤井　千尋　教諭
社会科　西川千代子　教諭

研究協議　指導助言　広島市教育委員会　指導第一課　橋本　裕治主任指導主事
広島市教育センター　正原　正直　指導主事
胤森　裕暢　指導主事

講演会　広島大学大学院教授　吉田　裕久　先生

４月２０日　**校内研修**　研究主題についての共通理解および本年度の研究の方向性について
開発的生徒指導についての共通理解

５月２５日　**研究授業**　１学年　道徳　川口健史　教諭
「朝のボランティア清掃活動で」
２学年　道徳　坂本雄史　教諭
「胸の痛むきまり～トリアージ～」
３学年　道徳　佐々木裕二　教諭
「リーダーの役割」

研究目標　規範性をはぐくむ教育の基本的な考え方について研修する
道徳授業の授業力を向上させる

研究協議　指導助言　広島市教育委員会指導第二課　高木　浩二　指導主事

６月　３日　**研究授業**　１学年　言語・数理運用科　甲元宏章　教諭
「給食から自給率について考えよう」
２学年　言語・数理運用科　今嶋直人　教諭　「日本オーレ！」
３学年　言語・数理運用科　三村潤一　教諭　「平和への誓い」

研究目標　言語・数理運用科の授業力を上げる

研究協議　指導助言　広島市教育委員会指導第一課　佐々木英三　指導主事
広島市教育センター　長屋　吉輝　指導主事

講演会　兵庫教育大学教職大学院教授　加藤明　先生
「目標と指導と評価の一体化による授業・学級づくり
～子どもを育てる教室環境・ことば～」

７月１１日　**研究授業**　１学年　数学科　柴田幸惠　教諭　「文字式」
２学年　国語科　亀田美砂　教諭
「豊かな言葉「短歌を味わう」・学習を広げる「短歌十二首」」
３学年　英語科　吉村綾子　教諭
「Unit3 E-pals in Asia : New Horizon English Course Book2」

研究目標　言語活動の充実を目指した授業づくりとは

研究協議　指導助言　広島市教育委員会指導第一課　光好秀紀　主任指導主事
広島市教育委員会指導第一課　小坂　剛　指導主事

講演会　広島大学大学院教授　吉田裕久　先生
「ひろしま型カリキュラムを活用した
言語活動の充実をめざす授業づくり」

８月　３日　**校内研修**　小小中特別支援教育研修会
「発達障害のある子どもの理解と対応」
講師　広島市教育委員会特別支援教育課　山領勲　指導主事

８月　４日　**校内研修**　小小中メンタルヘルス研修会
「教職員のこころの健康」
～自分のストレスパターンを知り，対処法を身につける～
講師　山根亜由美スクールカウンセラー

事務研修　学校における教育費に関する研修
講師　藤安京子　事務専門員　宮本敏子　主事

８月　５日　**校内研修**　規範性をはぐくむ道徳教育の推進道徳の研修
～「規範性をはぐくむための教材・活動プログラム」の活用を通して～
・道徳の時間について　・模擬授業
教材「貫戸朋子さんの葛藤」「償い」
講師　広島市教育委員会指導第二課　森川敦子　主任指導主事

研修目標　規範性を育む道徳の時間のあり方を学ぶ

学力向上推進事業　五日市南中学校区小・中連携教育研究会　小中合同研究会
全体会
① 平成23年度五日市南中学校区研究推進計画
② 目標と指導と評価の一体化にもとづく授業・学級づくり
③ 児童・生徒の「いいところ」を見つけて伸ばす開発的生徒指導
チーム別研究会（国語科，数学科，英語科，言語・数理，道徳）
・ 自己紹介　・ 情報交換
ア） 開発的生徒指導の面から
イ） 言語活動の充実の面から
ウ） 小中で連携できること　等

９月　７日　**研究授業**　１学年　言語・数理運用科　中村浩一　教諭
「著作権について考えよう」
３学年　国語科　碇　克枝　教諭
「助詞と助動詞」
３学年　数学科　角石耐子　教諭
「２乗に比例する関数」

研究目標　言語活動の充実をめざした授業づくりについて研修する

研究協議　指導助言　広島市教育委員会指導第一課　光好秀紀　主任指導主事
広島市教育委員会指導第一課　小坂　剛　指導主事
広島市教育委員会指導第一課　佐々木英三指導主事

（２）授業・学級づくり

兵庫教育大学教職大学院教授　加藤明先生からの授業づくりにおけるご指導より

本校は加藤明先生より教育方法に関するご指導を何度もいただいた。この５年間の研究の中心を貫いている「目標と指導と評価の一体化」からみえてきたことは，以下の４点である。

① 目標の明確化

目の前の生徒にどのような力をつけたいのかという教師自身が明確な育ちの姿を目標にもち，その目標を実現させる指導を行っていかなければならない。授業では，１時間単位の授業をするのではなく，単元の目標を明確化し単元全体を見通した学習計画を立案する。

② 目標を達成するための学習指導

単元の目標を達成するために１時間ごとの授業で目標を設定し，様々な学習形態や発問を工夫し目標達成を可能とする指導を行う。

③ 生徒が「できたこと」に対する評価

目標を達成できた生徒に対しては，その成果を評価（ほめ言葉）し，達成していない生徒には，目標が達成できる具体的な励ましの言葉をかける。

本校のとらえるほめ言葉・励ましの言葉

基本的・基礎的な知識や技能が身に付いたかどうかは，１時間の授業や定期試験，生徒の活動等を観察することで教師がある程度把握することができる。しかし，思考力や判断力，関心・意欲などは１時間の授業ではなかなか身に付かないため，授業中の生徒の様子を細かく見取ることで，できたことにほめ言葉で評価を返し続けることが重要になる。

また，「頑張れ」といった抽象的な励ましではなく，生徒が何に躓いて何に悩んでいるのかを見取り目標達成への方向性を示す具体的なアドバイスをしなければならない。

④ 形成的評価の活用

定期試験のみで，「できた・できなかった」を判断するのではない。教師は，目標を達成させるために，単元・１時間ごとの変容・小テストなどで，生徒の様子を見取り，必要があれば教え直しや補充指導を行い，指導してきた結果に責任をもつこと。

○　授業づくりの実践

（ア）　ほめ・励ましの言葉やカード

これまで，机間指導などでは生徒が何を考えているのかを把握し，授業構成を展開していく足がかりの１つとしてきた。また，躓いている生徒には本時の目標を達成するための方向性を指し示す具体的なアドバイスをかけていった。それまで手の止まっていた生徒も，教師のアドバイスをもらうことで「あっ，こういう意味だったのか」「この資料からは～ということがわかるな」と手が動くようになり，本時の目標達成へと向っていく姿が見られた。そして，目標を達成できた生徒には，目標に即した評価・ほめ言葉をかけることで，「頑張ればできるんだ」と認められたという実感や「次もやってみたい」などの学習意欲につながっていった様子が見られた。

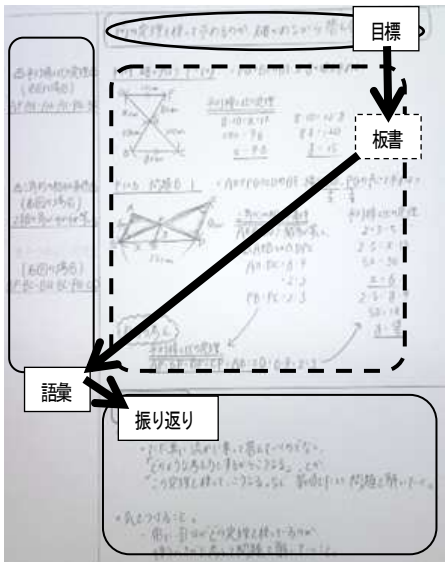
教師が，授業中に生徒の学習状況を見取り即時的に評価（「ほめ・励まし」）を返していくことで，学習意欲につながっていくことは確かであった。また，即時的な評価が返せるということは，教師自身がこの時間のねらいを明確にもっているためにできたことである。

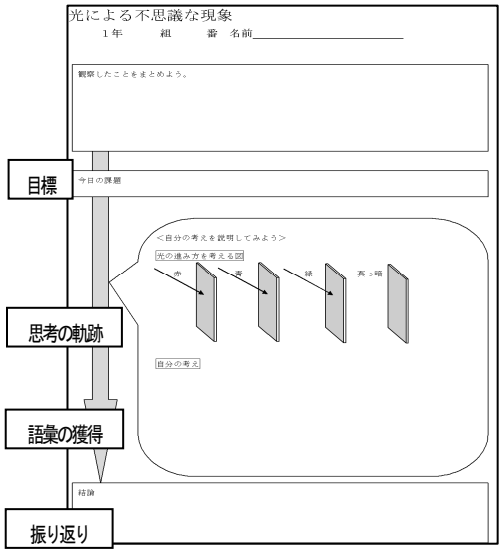
研究授業後には，１時間の授業で見取った生徒にほめ・励ましのカードを記入し，翌日担任が生徒へ配付した。このカードをもらい学習への意欲を高めることと同時に，「先生に見てもらえているんだ」「次は，今日よりもちょっと頑張ってみようかな」という生徒の内面をくすぐっていくことへつなげていきたいと考えている。

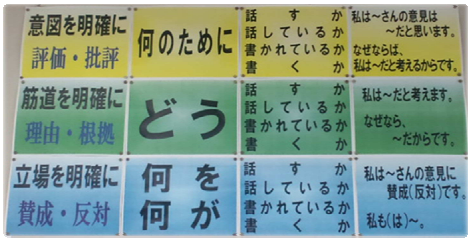
（イ）　ノートの取り方・ワークシートの工夫

言語活動を充実させる取り組みの１つにノートの取り方に着目し，思考力・判断力・表現力の向上を図ることとした。まず，何について学ぶのかという本時の目標があり，板書による学習内容を記入する。さらに，重要な語彙を活用して振り返りを行った。語彙の抜き取りや振り返り場面で留意する点は，授業の中で重要だと生徒自ら判断した語彙を抜き取ること。その抜き取った語彙を活用し，学習したことやわかったことを文章で表現する。生徒には各教科の基礎的・基本的な知識として学ぶ語彙の定着を図るだけでなく，その語彙を使って表現することができる語彙力の向上を図った。また，何がわかっていないのか客観的に把握する力を養うことにもつなげていきたいと考えている。

教師にとっては振り返り部分を見ることで，どの生徒がどれだけ学習内容を理解したのか，間違えて理解していないかなどを見取ることができるため，理解度が低い場合は教え直しを行ったり，指導を改善したりすることに活かすことができた。

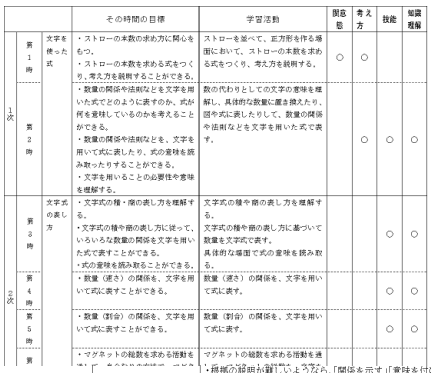




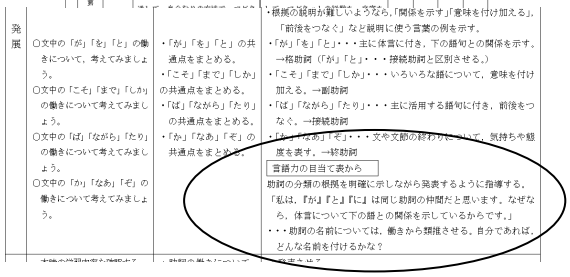


（ウ）　言語力のめあて表

３年前は結論先行型で理由を述べるという話型を全教科で行ってきた。さらに，言語・数理運用科の導入により「言語力のめあて表」を作成し，論理的な思考を促す発問の工夫から，理由や根拠を明らかにして自分の考えを表現することをどの教科でも繰り返し行った。さらに昨年度は，国語科の領域と関連性を強め，学年別の「言語力のめあて表」を作成した。今年度も教室に掲示し教師も生徒も言語力向上を意識して授業を行った。



			その時間の目標	学習活動	関心・態	考え方	技能	知識・理解
1次	第1時	文字を使った式	・ストローの本数の求め方に関心をもつ。 ・ストローの本数を求める式をつくり，考え方を説明することができる。	ストローを並べて，正方形を作る場面において，ストローの本数を求める式をつくり，考え方を説明する。	○	○		
	第2時		・数量の関係や法則などを文字を用いた式でどのように表すのか，式が何を表現しているのかを考えることができる。 ・数量の関係や法則などを，文字を用いて式に表したり，式の意味を読み取ったりすることができる。 ・文字を用いることの必要性や意味を理解する。	数の代わりとしての文字の意味を理解し，具体的な数量に置き換えたり，図や式に表したりして，数量の関係や法則などを文字を用いた式で表す。		○	○	○
2次	第3時	文字式の表し方	・文字式の積・商の表し方を理解する。 ・文字式の積や商の表し方に従って，いろいろな数量の関係を文字を用いた式で表すことができる。 ・式の意味を読み取ることができる。	文字式の積や商の表し方を理解する。 文字式の積や商の表し方に基づいて数量を文字式で表す。 具体的な場面で式の意味を読み取る。			○	○
	第4時		・数量（速さ）の関係を，文字を用いて式に表すことができる。	数量（速さ）の関係を，文字を用いて式に表す。			○	○
	第5時		・数量（割合）の関係を，文字を用いて式に表すことができる。	数量（割合）の関係を，文字を用いて式に表す。			○	○
	第		・マグネットの総数を求める指数を	マグネットの総数を求める指数を速				



発展	○文中の「が」「を」「と」の働きについて，考えてみましょう。 ○文中の「こそ」「まで」「しか」の働きについて考えてみましょう。 ○文中の「ば」「ながら」「たり」の働きについて考えてみましょう。 ○文中の「か」「なあ」「ぞ」の働きについて考えてみましょう。	・「が」「を」「と」の共通点をまとめる。 ・「こそ」「まで」「しか」の共通点をまとめる。 ・「ば」「ながら」「たり」の共通点をまとめる。 ・「か」「なあ」「ぞ」の共通点をまとめる。	・根拠の説明が難しいようなら，「関係を示す」「意味を付け加える」，「前後をつなぐ」など説明に使う言葉の例を示す。 ・「が」「を」「と」・・・主に体言に付き，下の語句との関係を示す。→格助詞（「が」「と」・・・接続助詞と区別させる。） ・「こそ」「まで」「しか」・・・いろいろな語について，意味を付け加える。→副助詞 ・「ば」「ながら」「たり」・・・主に活用する語句に付き，前後をつなぐ。→接続助詞 ・「か」「なあ」「ぞ」・・・文や文節の終わりについて，気持ちや態度を表す。→終助詞 言語力の目当て表から 助詞の分類の根拠を明確に示しながら発表するように指導する。 「私は，『が』『と』『に』は同じ助詞の仲間だと思います。なぜなら，体言について下の語との関係を示しているからです。」 ・・・助詞の名前については，働きから類推させる。自分であれば，どんな名前を付けるかな？

（エ）　学習指導案（指導計画）

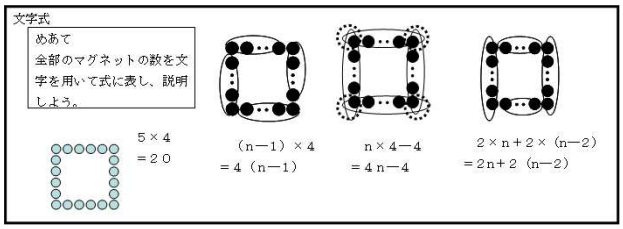
これまでの基本的な学習指導案には，単元を構成する小単位の名称と指導順序・配当時間を記入していた。今年度は単元の見通しを明確にするため指導計画には，１時間単位の目標と学習活動を表記し，単元を通して各観点バランスのよい評価ができるように記入することとした。

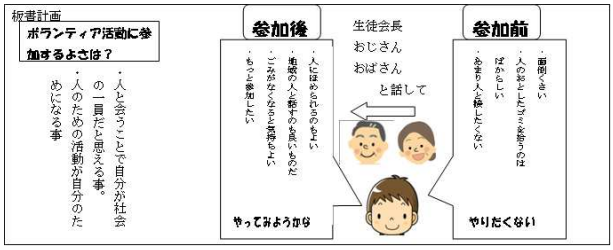
（オ）　学習指導案（学習過程）

本時の目標を達成させる場面や思考力・判断力・表現力を向上させる場面で言語力のめあて表を活用することとした。学習過程のどの部分で言語力のめあて表を活用するのか表記することで意識付けを行った。

（カ）　学習指導案（板書計画）

板書には，その時間の中で生徒にどのような力をつけたいのか目標をもち，実現するために，意図をもった板書をしていくことが大切である。そのため，板書には指導の足跡が残るように生徒がその時間に何を目標に学習していくのかという見通しをもたせ，何を学習してきたのかがわかるように板書の計画を行った。



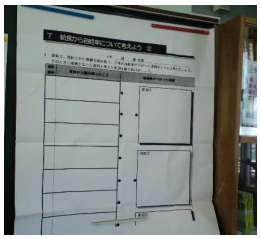


（キ）　目標達成の各教科での工夫

研究授業前の学習指導案を練る段階では，各教科チームや各学年で様々なアイディアを出し合いながら学習指導案を完成させていった。道徳授業や言語・数理運用科の研究授業前では学年の教員が授業観察を行い協議したり，学年の教員が生徒役をして模擬授業を行ったりした。そこで，その時間の目標が達成できるための授業形態や学習過程を吟味していった。各教科においても，教科会を開いて各教科チームで授業観察や協議をすることで，教師の授業力アップを図った。

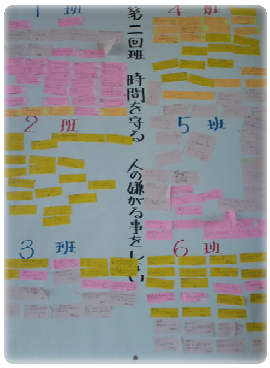
道徳では，大型テレビの活用や実物を資料として提示するなど，その場面の雰囲気が伝わる臨場感のある学習を展開した。言語・数理運用科では，生徒の実態にあわせた授業展開を行った。例えば，「推論する」とはどういうことなのか，中学１年生がわかるように身近な例を挙げて説明を加えた。

また，ワークシートへの記入の際には拡大したワークシートを提示し，全生徒の視線を前に向けさせるための工夫を施した。英語科は，カードを使用し例文練習を繰り返した。この工夫によって，班でかかわり合いながら学習することだけでなく，英語が苦手な生徒でも「やってみようかな」「これなら自分もできるかもしれない」というやる気が生徒から見ることができた。



○　学級づくりの実践

本校の学級づくりは，担任を中心として全教職員が，あらゆる場面で・どの生徒にもよいところを見つけ認めていくことで，自己肯定感あふれる集団を育て，学習の土台となる学習集団へと成長させていくことにある。その実践を紹介していく。



（ア）　カードを活用し自己肯定感あふれる学習集団へ

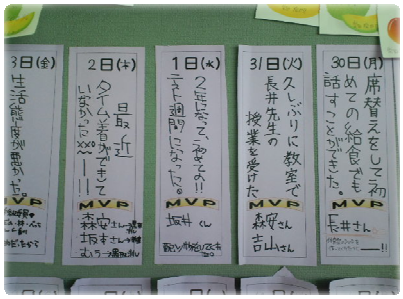
「いいとこ見つけ！」カードをベースに，「ほめほめの木」「ほみはの木」「いいとこカード」など様々なネイミングを行い，生徒同士で仲間の伸びや成果をカード・付箋紙に記入して掲示する学級が増加している。このような取り組みを重ねることで生徒同士がお互いにほめ・認め・励まし合える支持的風土のある集団へと成長していくのではないだろうか。また，学級だけではなく，他学級の生徒へカ

ードを記入する生徒が出てきた。そして，教科担任が授業中の生徒の伸びや成長をカードに記入するといった，学級内にとどまらず「あらゆる場面で」「どの生徒にも」の実践が広まっている。この取り組み成果は，学校評価の生徒アンケートにも明らかに出てきた。もちろん，カードだけの取り組みだけではなく，生徒の活動中その場でタイムリーに成果をほめるこが必要である。生徒が毎日提出する日記には，生徒を認め・励ます言葉かけを欠かさず行っている。

（イ）　応答しあう教室環境

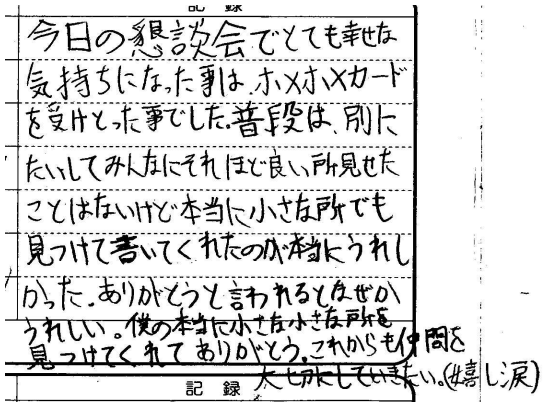
前年度 12 月に宮島小・中学校木本校長先生（当時）より助言をいただいた担任は，行事の目標に対して生徒に振り返りを行い，記入した内容にコメントを書いていた。コメント内容は，生徒の頑張りや努力を認めるものであり，生徒の今後を指し示すアドバイスもあった。この取り組みは，加藤先生のお話にあった，応答する教室掲示につながるものである。

また，生徒が成長していく様子を見える形にした学級掲示をしている教室では，その日のMVＰを話し合いで決定し，その理由を説明できるよう言語力の育成にもつなげている。



（５）　生徒の日記より

これらの取り組みの継続により，生徒の日記には少しずつ変化が見られてきている。懇談会でほめほめカードを渡されたことによる仲間への感謝と仲間を大切にしていきたいという気持ちの高まりが見られた。また，学級集団アセスメントの結果，学習的支援・対人的支援ともに支援を必要とする生徒の日記の変化は大きく，４・５月はネガティブな内容の日記が多く書かれていたが，夏休み前には，ほめほめカードのよさや，授業中の挙手回数を増やすことの意欲につながる内容が見られるようになった。



（６）　その他の環境づくり

生徒の学習を取り巻く環境は，学力を向上させるためにはとても重要になってくる。３年前，ボランティアを募って行った図書館改装工事により図書館環境を整備した。昨年は，旧市民球場の土や芝生でミニ市民球場を作った。今年度は定例のＰＴＡや生徒会主催の清掃ボランティアに加え，環境学習とともにメモリアルロードの作成を広島工業大学の学生と生徒ボランティアで行い，校内の学習環境整備にも取り組んでいる。

図書室改装に広工大生協力

佐伯区の五日市南中

広島市佐伯区の広島 目立ち、悪臭を手伝う工業大の建設工学を学 保護者から改装を望む ぶ学生らが、老朽化した 声が出ていた。 た五日市南中の図書室 しかし、財政難を背 の改装に協力した。六 景に市は昨年度一般会 日から三日間かけて床 計予算の学校施設維持

図書室の床に板を張る中学生と大学院生たち

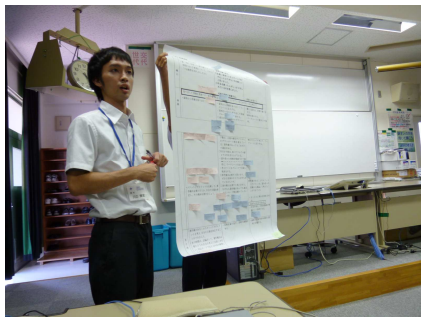
（３）　研究授業の工夫

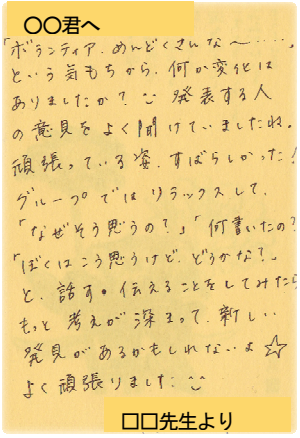
昨年度の課題から，今後私たち教師に必要なこととして自分自身の振り返りを行うことが大切だとあった。また，広島市教育センターの清水剛主任指導主事，長屋吉輝指導主事には教師の振り返りをふまえた研究協議会の持ち方をご指導いただいた。

昨年度までと共通部分としては

① 研究授業の目的や研究協議の視点を事前に伝え，共通理解をもって研究授業へ参加する
② ワークショップ型にすることで全員参加の協議会をめざす
③ 協議後，各グループ発表を全体の場で行い，でてきた意見の共有化を図る
④ 生徒全員に「ほめ・励ましのカード」を配付する
⑤ 学習指導案は各教科チーム・学年で練り，授業者だけに負担をかけない（授業観察・模擬授業）

である。





新たに今年度の工夫点としては，教師の見取り・時系列・振り返り・意識の継続の４点である。

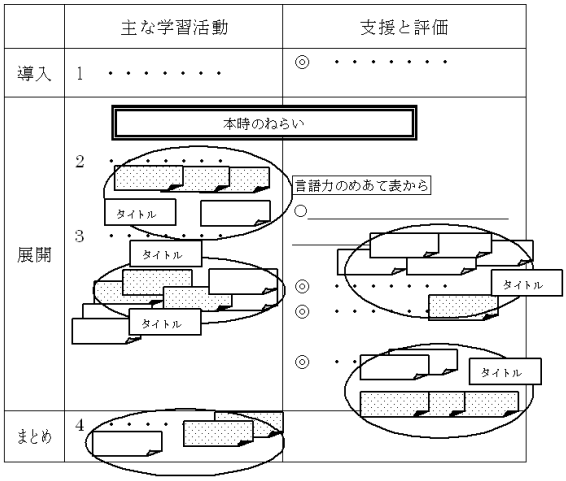
（ア）　教師が生徒を見取る

自分の授業を振り返り今後の自分の授業改善につなげるためには，授業の課題点を発見することから始まる。授業の課題点を発見するというのは，授業者の「ここがダメだった」とダメだしをするのではない。授業者は，本校の教師・生徒のために授業を提案しているため，さらに子どもにとって良い授業になるには「自分だったらこうする」「こうするともっと良くなる」といった建設的な協議会をめざさなければならない。

しかし，「自分だったらこうする」「もっと良くなる」というのは，何を根拠に述べられているのだろうか。これらの根拠は，全て授業中の生徒の様子を見取ることから述べられるのである。そこで，本校の研究授業では，一人の教師が４～６人の生徒を担当し，生徒が授業中にどのような活動をしたのか，どのような表情だったのか等の事実を細かく見取ることで，授業の課題を推測し協議をすすめていった。

見取りカード（　　先生）

(　　)さん・君	(　　)さん・君
(　　)さん・君	(　　)さん・君



（イ）　時系列で生徒の様子を協議できるように協議シートは学習指導案を拡大

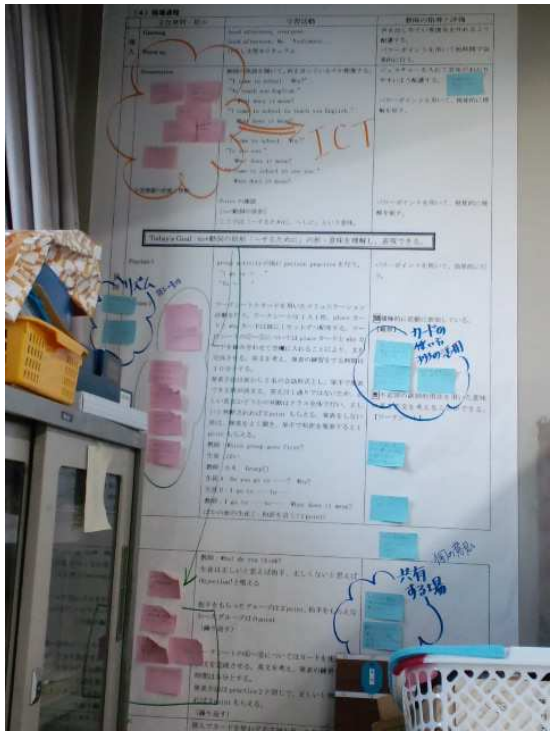
ワークショップ型の協議シートには様々な形式が用いられている。本年度は，生徒の様子を導入場面・発問場面・展開場面・言語力のめあて表を活用する場面・振り返り場面・まとめ場面などの順をおって生徒の様子を付箋紙に記入し，シートに貼っていくことにした。こうすることで，生徒の変容が協議者により分かりやすく，授業の全体像がイメージしやすくなるという利点がある。

（ウ）　振り返りから次の自分の授業へ活かすために（若手教師の育成）

（ア）生徒の見取りから発見した課題は，付箋紙に記入し協議シートに理由を言いながら貼り付けていくが，授業の課題をどう解決していくかが中心に協議されなければならない。この場が，教師の学ぶ場の１つなのである。

そして，新任教師の採用枠が増加している現在では，ベテラン教師が若手の教師に授業のノウハウを伝える大切な場であり，ベテラン教師も若手教師に伝えることで，これまでの振り返りを必然と行うことになる。若手教師は，ベテラン教師と協議することでしっかりと授業技能を学んでほしい。そして，自分の授業中に協議会で協議した場面に遭遇したとき，すぐに対応できるようになることを望んでいる。生徒は，日々変化していく。その変化を見取りその変化に応じた授業が実践できるよう，教師自身が日々学び続けなければならないことは言うまでもない。

（エ）　その日限りの協議会にならないために



研究授業を行う目的は，教師の授業力向上である。研究授業後に授業者・観察者は，自分の授業を振り返り次の授業へ活かされなければならない。一方，研究授業後には，「よし，次の授業では」と意気込むものの，なかなか授業改善するキッカケがつかめないのも事実である。そこで，協議会で使用したシートを職員室内掲示することにした。研究協議後の「よし，次の授業では」という気持ちを少しでも継続させたい。

しかし，シートが大きすぎて全部掲示することが難しいという課題もあり，掲示場所やシートの大きさを考えなければならなかった。

（４）　総合的な学習の時間

本校では，総合的な学習の時間において，大きく分けて，

（ア）　人や社会と積極的に関わりながら，働くことと学ぶことの意義を学ぶとともに，自分自身の可能性を追究していこうとする意欲や態度を養うこと。

（イ）　自分を見つめ，自分のよさを知るとともに，これからの自らの生き方を考え，自己実現を目指そうとする意欲と態度を養うこと。

の２つをねらいとしている。

そこで，１学年では「夢への第一歩」，２学年では「私のチャレンジ」，３学年では「地域への貢献」をテーマに１学年 18 時間，２学年 50 時間，３学年 35 時間で展開した。総合的な学習の時間の２つのねらいのうち，(ア)のねらいを達成させるために，本校では「ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに学ぶ会」を各学年で実施している。

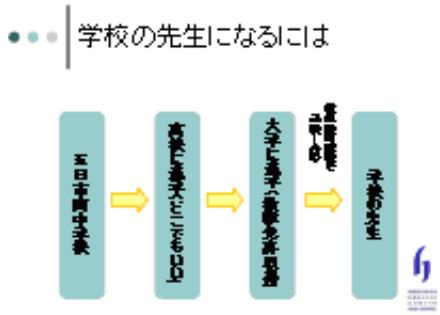
○　１学年「ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに学ぶ会」

１学年の「ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに学ぶ会」のねら　いは，ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰが持つ『働くこと』の価値観を追究したり，ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰとのふれあいを通して，ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰの夢や目標，努力，情熱について気づいたりすることである。

学習のねらいなど生徒に伝えたいことを事前に確認していたので，当日，実際現場で使っておられるものを持参下さって実践させていただいたり，ﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄを作成し，仕事の内容や様子を伝えてくださったりして，「働くことは厳しいが，でもやりがいがある，夢がある」ことをそれぞれに趣向をこらし語っていただけた(表１)。

表Ⅰ　　１学年　ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰ一覧

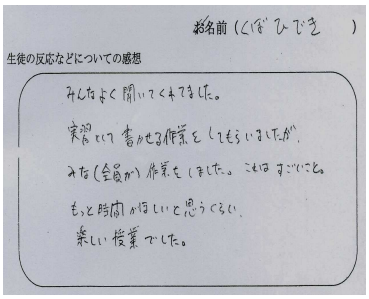
事業所名	代表者名（担当者）
鯉城餅（和生菓子製造業）	南郷　敬史（代表取締役社長）
福井税理士事務所	福井　政夫
五日市南保育園	栗栖　直子（園長）
広島市五日市南地域包括支援ｾﾝﾀｰ	竹橋　俊吾（センター長）
ジャズピアニスト	杉山　ルミ子
広島国際学院高等学校	金田　浩司（１学年学年主任）
Atelier Sano（アトリエ・サノ）	佐野　壽一
広島市西部こども療育ｾﾝﾀｰなぎさ園	虻田　洋子（園長）
ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞﾌﾚﾝｽﾞ　ＮＰＯ（平和活動）	多葉村　将樹
海上保安庁（ＯＢ）	田坂　茂（海事補佐人一級海抜士）
広島市佐伯区社会福祉協議会	三上　恵利子
日本赤十字社	岡田　邦裕　和久利　正勝
廿日市大野消防署	山西　大介（救急分隊分隊長）
マツダ（株）ﾊﾟﾜｰﾄﾚｲﾝ開発本部	高田　直哉
広島県警察本部	檜崎　伴幸（広島県警警部補）
株式会社エポカケアサービス	赤木　裕二
鉋鍛冶	石社　修一（いしこそ）
大竹市福島建設株式会社（大工）	泉川　泰紀
ヘアサロン　シモオカ	末田　展子　神谷　繁樹



ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰのお話を聴いて心を動かされ、夏休みの課題である人権作文を書いた生徒がいた。また、ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰのほとんどが，学区の職場の方や元保護者など地域の方でいらっしゃるので，休憩時間には，生徒たちがｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰと打ち解けて話をしている様子が伺えた。異世代とのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを図るよい機会であると実感した。この後、１学年では、「私の将来設計図」を作成し、夢の実現に向けてまた１歩踏み出す。

○　２学年「ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに学ぶ会」

２学年「ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに学ぶ会」のねらいは，自分の特技や特徴を生かした職業に就いている人，資格をとって頑張っている人の話を聴くことで，技術や才能を伸ばしたりり，夢を実現させるためには努力が必要であることを学びとらせることである（表２)。


お名前（くぼ ひでき　）
生徒の反応などについての感想
みんなよく聞いてくれてました。
実習で書かせる作業をしてもらいましたが，
みな（全員が）作業をしました。これはすごいこと。
もっと時間がほしいと思うくらい，
楽しい授業でした。

外部の方をｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰとしてお迎えし，話をしていただくことは，生徒がこれからの自分の生き方を考える上で，教員が語って聞かせるよりも格段に効果的である。生徒は，目を輝かせながら真剣に聴いている。ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰの方からも「一生懸命聴いてくれてうれしい。自分の思いがもっと伝えられるように工夫すればよかった。」などの感想をいただいた。ねらいを理解していただき，学校と協力し，子どもたちを育てようという思いをもって下さっていることに感謝している。

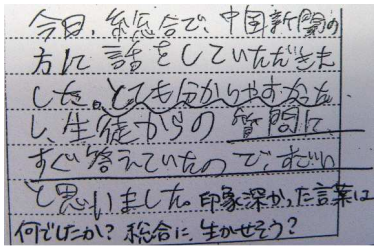
表２　　２学年　ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰ一覧

事業所名　職業	ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰ
作家	久保　秀樹
	巣山　ひろみ
佐伯区ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ　館長	藤山　勇進
言語聴覚士	石田　貴和
CS広島学習会　介護福祉士	高杉　有希子
マツダ	福馬　勉
五日市南地区給食ｾﾝﾀｰ　栄養士	時光　奈苗
五日市南中学校　事務職員	藤安　恭子
ひろみ幼稚園　園長	清川
浜崎バレエ教室　主宰	浜崎　優子
海老園豊見薬局　薬剤師	豊見　敦
広島入国管理局	河嶋　啓
高尾事務所　司法書士	高尾　昌二
中国新聞社　県政担当	加納　亜弥
気象予報士	山本　剛弘
建築設計事務所ﾌｰﾊﾞﾝ　１級建築士	下田　卓夫
ｱﾏﾘﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院　理学療法士	川村　美紀子
比治山大学　学長	高橋　超
看護師	田中　まゆみ
広島社会福祉協議会　社会福祉士	三上　恵理子

２学年では，職場体験学習にそなえ，広島市立広島商業高等学校教諭をｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに招き，ﾏﾅｰ講座を実施している。礼の仕方や電話応対の仕方など，職業人として必要なﾏﾅｰを学ぶ。職場への事前訪問のｱﾎﾟｲﾝﾄﾒﾝﾄをとる際には，ﾏﾆｭｱﾙを見ながらではあるが，ﾏﾅｰ講座で学んだことを活かしながら，緊張した面持ちで臨んでいた。この後、２学年では一人ひとりが自分の可能性を追究するために、職場体験学習にチャレンジをする。

○　３学年「ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに学ぶ会」

３学年の総合的な学習の時間は，社会の一員として地域に貢献する活動を通して，自分を見つめ，自分の可能性を追究していく学習である。生徒は，自分が地域に貢献できることは何かを考え，課題設定をし，見通しをもって主体的に課題解決していく。そのため，３学年「ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに学ぶ会」は，中国新聞社の方をお招きし，情報収集の仕方やまとめ方について学ぶことがねらいである。この会で，生徒は①色々な人から話を聴き，その中からどれを使うかを取捨選択すること。②多角的な視点をもって取材に当たること。③興味を引きつけるような見出し，写真そして，記事の要点をわかりやすくするためのｸﾞﾗﾌなど載せ，それらからどんなことが書いてあるかわかるようにする。など，情報収集やまとめ方についてたくさんのﾋﾝﾄを得ることができた。平成21年度より「ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに学ぶ会」を始めた。


今日，総合で，中国新聞の
方に話をしていたがをも
した。とても分かりやすかった
し，生徒からの質問に
すぐ答えていたので，すごい
と思いました。印象深かった言葉は
何でしたか？総合に生かせそう？

地域の回覧に「地域ｻﾎﾟｰﾀｰ募集について」のお知らせを入れてもらうなど，最初は人材探しに大変だったが，毎年ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰを引き受けてくださったり，今年度は現３年生の保護者が，ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに名乗り出てくださった。この会の意義を理解して下さっていることがわかり，とてもありがたかった。地域と学校が協力して子どもたちを育てようと呼びかけてきたことの表れであると感じる。また，今年度は

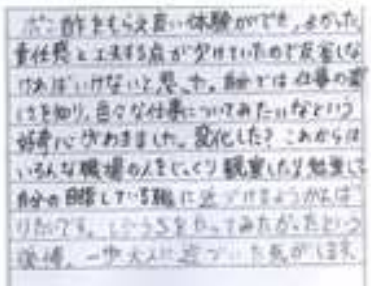
本校の卒業生がｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰとして講演して下さった。この会の意義を感じた生徒が，保護者となったとき，本校のｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰとして来てくれることを期待したい。

本校の総合的な学習の時間の２つのねらいのうち，

（イ） 自分を見つめ，自分のよさを知るとともに，これからの自らの生き方を考え，自己実現を目指そうとする意欲と態度を養うこと。

を達成するために，２学年の職場体験学習の果たす役割は大きい。

○　２学年職場体験学習



この職場体験学習のねらいは，自分の可能性を追究することや資格や技術を習得するまでの苦労を聴くことで，『働くことの厳しさ』，『夢をもつことの大切さ』を学ぶことである。多くの生徒が，予想とは違う現実の厳しさを知ると同時に，現場で働く方々の仕事に対する思いを知ることができた。また，与えられた仕事に責任を持ち，自分なりに一生懸命取り組み，やりきったことで，事業所の方や利用者から，「来てくれて助かった。」「ありがとう。また来てね。」と言ってもらい，自信をつけていったようである。また，体験発表会では，これまで表面的にしか見ていなかった職場での仲間の体験を聴き，他の職業でも同じように厳しいことを知ったり，仲間の頑張りを認めあったりすることができた。

この職場体験学習では，働くことの厳しさや楽しさを学び，自分と向き合い，これからの学校生活をどう送っていくべきかを考えることができた。自分の夢を見つけ，自分の夢を実現させるための進路学習になった。

○　小小中連携

本校では、小小中連携の１つとして、３学年の実践発表会に五日市南中学校区の２つの小学校の６年生を招待している。３年生は、「地域への貢献」をテーマに、８つの講座に分かれ、自分のよさ、特技を生かしながら、それぞれが調べ、整理分析し、まとめる(表５)。小学生にもわかりやすくするために、難しい漢字には読み仮名をふったり、参加型の発表をするなど工夫をしていた。小学校でも調べ学習をしたけれど、もっと詳しくわかってよかったなどの感想をもらうことができた。

表５

	講座名(ﾃｰﾏ)	活動内容
1	地域のヒロシマ	ヒロシマの体験の記憶を風化させないためにはどうすればよいか、またそれがどう地域に貢献できるかを考えます。
2	マップをつくろう～住みよい町にするために～	自分たちが暮らしているこの町は、現在住みよいものとなっているか。小学生の立場、お年寄りの立場、目の不自由な人の立場・・・・様々な観点からこの町の現状を把握し、それをマップにまとめました。その上で、よりよい町にするためにはどうすればよいかを提言していきます。
3	健康南中２１	健康とは何か？どうしたら健康になれるのか、自分にできることは何かを考え、地域の一員として地域の健康つくりに取り組みます。
4	地域のスポーツ	この地域にあるスポーツに関わっている施設や商業、スポーツ少年団、クラブチーム、地域総合型スポーツクラブなどが、この地域の体力向上や健康にどのようにして関わっているのかを調査し、その上で体力向上や健康を意識した町にするためにはどうしたらよいかを考えます。
5	五日市南地区の防災	我々の住む五日市南地区は果たしてどのような被害が起こりうるのか、心がまえから実際の避難場所まで、地域の防災に関する情報を可能な限り集め、伝えます。
6	河川の環境	三筋川の水質汚染、そこで生活する生物のようすなど、多くの課題が考えられます。これらの中からテーマを決め、詳しく調べています。
7	幼児とのふれあい	中学生になるまでに、家族や地域の人々などおおぜいの人々とかかわり、それらの人々に支えられながら成長してきました。これからは、積極的にこのつながりをつくっていく時です。幼児の生活にはどのようなものが役立つのかを考え、自分たちがつくったものを用いて、幼児とのかかわりかたを工夫したり、幼児と一緒に遊びをつくり出したりします。
8	世界に誇るomotenashi	今後、人・モノ・サービスの行き来には、ますます国境がなくなっていくと予想されます。そのような時代、他と違う個性を出すには？「日本らしさ」を発信していくには？何が必要なのでしょうか？英語を学んだだけではなく、世界に通じる「日本らしさ」には、具体的にどのようなものがあるのかを調べ、それを堂々と英語でも日本語でも語れる人を目指します。

（５）　道徳教育の推進

（ア）教育活動全体を通して道徳教育を推進する。

①　思考力・判断力・表現力を育成する道徳の時間にする。

②　道徳の研修会を持ち、教師の授業改善を行う。

③　ほめ、励まし、認め、生徒の道徳的実践意欲を高める。

④　道徳的実践をする場を設定する。

（イ）　実践

○　道徳の時間

研究授業　１学年　「朝の清掃ボランティア活動で」　川口健史　教諭

２学年　「胸の痛むきまり　トリアージ」　坂本雄史　教諭

３学年　「リーダーの役割」　佐々木裕二教諭

研究目標　規範性をはぐくむ道徳教育の基本的な考え方について研修し、道徳の授業改善を行うことができる

研究協議　指導助言　広島市教育委員会指導第二課　高木　浩二　指導主事

この研究授業を通して、指導案の書き方から学習する必要のあることに気づいた。生徒の今の考えを把握し、道徳の授業を通して、生徒に高めたい・気づかせたい考えは何かを明確にする。そして、考えを高めるためのポイントを書くようにする。このように指導案を改善することで、授業者は生徒にどのような価値に気づいて欲しいのかを明確にもつことが出来るようになった。

道徳と国語との違いを知り、道徳では資料のどこに書いてあるか探させるのではなく、資料を通して考えさせることの大切さを学んだ。つまり、資料提示の仕方を工夫する必要があることに気づかされた。

○　道徳の研修会

研究目標　規範性を育む道徳の時間のあり方を学ぶ

講話　「道徳の時間のあり方」

広島市教育委員会　指導第二課　森川　敦子　主任指導主事

模擬授業　１学年「貫戸朋子さんの葛藤」　森川　敦子　主任指導主事

役割演技・板書・発問について

３学年「つぐない」　柴田　幸恵　教諭

資料提示の仕方について

森川主任指導主事の講話より次のことを学習した。（抜粋）

- 道徳の時間の３つの出会いは資料との出会い、友達の考えとの出会い、自分との出会いである。
- 道徳の時間は道徳的実践力を育成する時間であって、道徳的実践を行う場ではない。
- 資料提示はサッと読めてうーんと考えるものにする。
- 展開の前段では、資料を使って考えさせるが、資料の読み取りに終わらず、価値に関わることを十分考えさせる。
- 展開の後段では、道徳の時間のねらいに直結するようにしっかり時間を取って生徒に考えさせる。教師の価値観を押しつけないようにする。
- 終末は余韻を持たせて終わる。

【模擬授業より】

- 生徒の発言をそのまま板書するのではなく、キーワードを書いたり、ポイントが分かるように板書を工夫したりする。
- 役割演技では、教師と生徒で行い、相手の発言に対してさらに切り返しの返答することでそのときの思いを深く

考えさせるようにする。「う～ん」と考えさせる。

- 生徒の書いたワークシートを机間指導の時にみて、「どうしてそう思うの」「もしこんな場合はどうする」など、一人ひとりの価値を高める声かけをする。

この研修により、教師がこれからの授業でやってみたいと思うことは次のようであった。

【発問】

- 発問に対する反応例がたくさん出たので授業をする上の切り返しにとても役に立った。
- ジレンマを与えるところから、より深く考えさせるための切り返し発問にもっと注意してみる。
- 生徒から出てきた言葉を教師がどのような言葉で返していくかなどきめ細かい配慮の必要性を感じた。
- 「質の良い沈黙」により、生徒に思考を深めさせる。

【小グループでの意見交流】

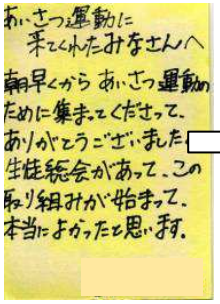
- グループ交流を行うときの視点を明確にして話し合わせることや基本発問、中心発問の持っていきかたを参考に授業する。

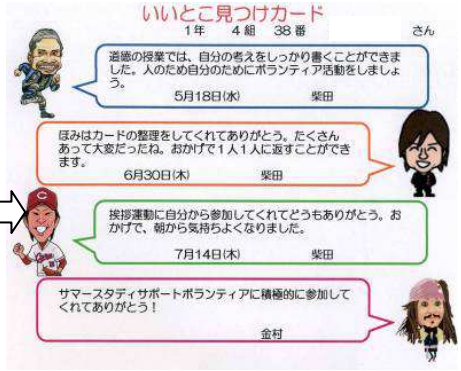
【振り返り】

- 授業のまとめでは、教師が話しすぎず、生徒の感想を使って振り返りをする。
- 余韻を持たせて終わるためのバリエーションを考える。

○　道徳的実践意欲を高める取り組み

認め合い、励ましあえる支持的風土をつくるために、生徒同士で互いのがんばったことを認めあう。教師全員で生徒のがんばったことを「いいとこ見つけ！カード」に書き、懇談会で渡す。



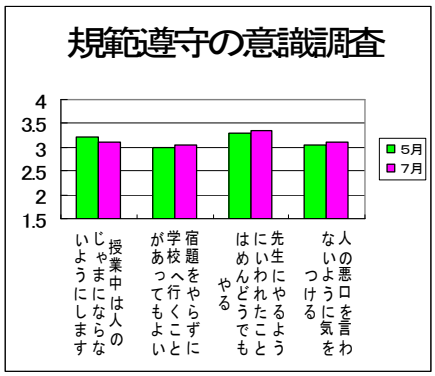


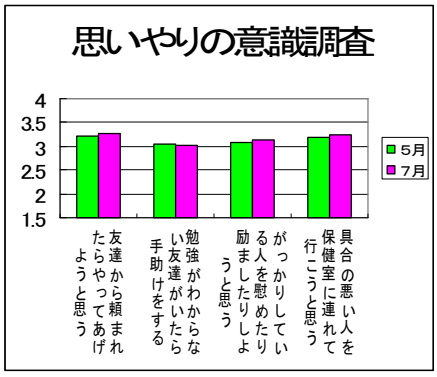
○　道徳的実践をする場の設定

道徳の授業後、道徳的価値を実践に生かせるような場を設けた。道徳の授業「朝の清掃ボランティアで」を行った後に、生徒総会を持った。生徒は、生徒総会で「ボランティア活動の機会を増やしてほしい」という提案をした。その後、生徒会執行部があいさつ運動の呼びかけをするとこれまでにないほど生徒があいさつ運動に参加するようになった。また、ボランティア活動などの参加を保護者や地域の方に呼びかけ、一緒に活動することによって、生徒を承認する機会を増やしている。

○　意識調査

全体的に見て、５月より７月は高まっている項目が多い。このことから、生徒の規範遵守と思いやりの意識は高まっていると考えられる。これからも定期的にアンケートを取り、生徒の変容を丁寧に見取っていきたい。





（６）　文化センターとしての図書館

３年前，図書館の改装工事が行われた。この改装工事には広島工業大学の学生が中心となり，本校生徒ボランティア，保護者ボランティア，教職員が参加することとなった。これを機に，読書活動を推進する取り組みがさらに活発になった。

（ア）　ことばの力を育てる読書活動

読書活動は，生徒たちがたくさんのことばと出会い，出会ったことばを学び，物語の内容を自ら想像したり続きを考えたりといった，感性や表現力を磨き，豊かな創造力を身に付けることができる活動の1 つである。この読書活動を推進していくことは，生徒がこれからの人生をよりよく生きていくための力を身に付けていくことにつながるのである。

そして，生徒たちがあらゆる場面で知識・技能を習得したり，これらを活用して課題を解決するために思考・判断したり，伝えたいことを表現したりするときも常に言語によって行われている。学力の三要素においても言語に関する力は非常に重要であるといえる。

また，新学習指導要領では，生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむために，国語科だけでなく全教科で言語活動の充実を図ることになっている。

これらのことから，各教科における思考力・判断力・表現力をはぐくむためには言語活動の充実が重要になる。そして，言語活動を充実させる基盤となるのは，読書活動を推進し生徒たちにたくさんのことばと出会う環境づくりをしていくことである。

（イ）　読書活動の推進

○　読書センターとして

本校の図書館は，図書委員が中心となり運営を行っているだけではない。図書ボランティア（保護者）にも携わっていただき，図書館内の整備や一層の充実を図っている。そのため，生徒の図書館利用者は，この３年間で約７～８倍も増え，貸出数も 10 倍弱となった。このような変化が見られるようになったのは，以下の取り組みがあったからである。

① ＶＴＲによる図書館の利用法・本の貸出方法・新刊の案内等を紹介
② ＬＥＧＥＮＤ（図書館便り）の発行
③ 貸出数による表彰
④ 地域の方による読み聞かせ会
⑤ 図書委員会のアンケート

ＶＴＲによる紹介は，昨年度より各教室に配置された 50 インチテレビを活用することで，入学してきたばかりの１年生にとって視覚的に分かりやすい紹介であった。図書館への入館意欲を高めるうえで非常に効果的であったと感じる。

また，ＬＥＧＥＮＤを定期的に発行することで図書館に行かなくても，どのような新刊が入ったのか，図書館利用の様子，漢字検定にかかわる情報等を生徒だけでなく保護者へも伝えることができている。

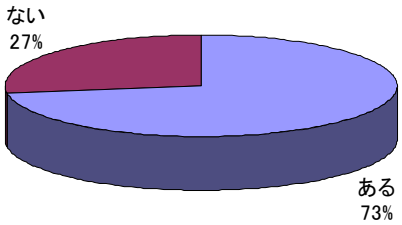
次に，数年前から行っている表彰である。読書が大好きな生徒は自分の大好きな読書で頑張りを認めてもらい，読書が苦手な生徒でも，自分の興味のある本をある程度読むことで頑張りを認めてもらうことができる。本校の研究主題の副題にある開発的生徒指導につながる表彰といえるのではないだろうか。この表彰は，生徒の読書活動や言語

を使って考えようとする意欲をくすぐっていくものであると考えている。

そして，読み聞かせ会である。生徒たちは地域の方から本を読んでくださるのを，目をキラキラさせながら聞いている。

最後に，図書委員会のアンケートを実施することで，生徒の利用状況をグラフにまとめ図書館利用の実態を的確に把握することができる。生徒が図書館利用に関して何を「要求・意見」しているのか，なぜ図書館を「あまり利用しない」のかを知ることで，多くの生徒が図書館を快適に利用できる環境へと変化させることができる。今年度のアンケート結果は以下のような内容である。

図書館を利用したことがありますか？（572 名）



利用したことがない理由
図書館が混んでいる
自分で本を持ってきている
買った本を読み切っていない
学級文庫でいい
本はあまり好きではない
利用したいと思わない

要求・意見
混雑解消の工夫
人気シリーズをいれてほしい
カウンターを広くしてほしい
語学やスポーツに関する本を増やしてほしい
朝と放課後も開館してほしい

○　学習・情報センターとして

図書館は図書の増加だけでなく，様々な資料が整備されている。読書センターとしての機能だけでなく，総合的な学習の時間や各教科の授業でも生徒たちは図書館を利用している。特に総合的な学習の時間にかかわっては「働くこと」についての資料や本のコーナーを設けてあり，生徒たちが情報を収集し，選択，活用する能力を身に付けさせる工夫がされている。

また，漢字検定の時期になると，図書ボランティアによる漢字検定学習会が開かれ，落ち着いた環境の中で学習することができている。３年間で，漢字検定受検者数は３倍強の増加を見せている。

○　地域・保護者に開かれた図書館として

総合的な学習の時間では，各学年地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき「働くこと」「資格をとること」「体験談」等をお話ししていただく。その際に図書館を控え室として活用している。また，ＰＴＡ役員と教職員の顔合わせの際にも図書館で行っている。五日市南中学校区の小学校の先生方との情報交換会や民生委員の定例会にも図書館を利用するのである。これは，地域の方や保護者，小学校の先生方に五日市南中学校の図書館を知っていただくことが目的の中に入っている。

小学校の先生方には，五日市南中学校へ入学する児童たちに何らかの形で中学校の図書館についてふれてもらい，読書活動の推進と同時に小・中のつながりを深めたいと考えている。地域や保護者の方には，子どもとの会話の１つとして図書館についてふれてもらい，こどもの読書活動の活性化につながっていくことを願っている。

（ウ）　さらなる読書活動の推進をめざして

図書館来館者数や貸出数，漢字検定受検者数の増加は，これまでの生徒会や図書ボランティアの方々による日々の取り組みの結果である。

読書活動は生徒の思考力・判断力・表現力を向上させるために必要であることは，どの教師も理解しておかなければならない。

そして，生徒会の委員会や図書ボランティア，図書館担当教員だけに任せっきりにするのではなく，全ての教職員が読書活動の場となる図書館の重要性を深く理解し，あらゆる場面で，どの子にも読書活動を推進していくことが今後望まれる。